

平成24年(ワ)第3671号、平成25年(ワ)第3946号、平成27年(ワ)第287号、平成28年(ワ)第79号、平成29年(ワ)第408号、平成30年(ワ)第878号、令和3年(ワ)第3509号
大飯原子力発電所運転差止等請求事件

原告 竹本修三 外3465名

被告 関西電力株式会社 外1名

証 拠 説 明 書

(丙406~丙410号証)

令和4年5月24日

京都地方裁判所第6民事部合議はB係 御中

被告訴訟代理人 弁護士 小 原 正 敏



弁護士 田 中 宏



弁護士 西 出 智 幸



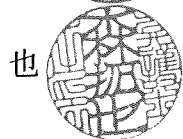
弁護士 神 原 浩



弁護士 原 井 大 介



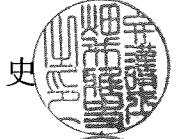
弁護士 森 拓 也



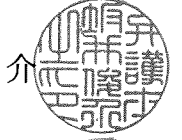
弁護士 辰 田



弁護士 畑 井 雅



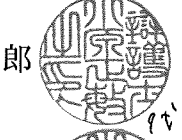
弁護士 坂 井 俊



弁護士 山 内 喜



弁護士 谷 健 太 郎



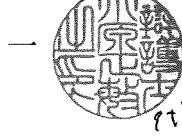
弁護士 酒 見 康



弁護士 中 室



弁護士 持 田 陽



号証	標 目 (原本・写しの別)		作成年月日	作成者	立 証 趣 旨
丙 406	水路測量技術テキスト 水路測量 第3巻 (抜粋)	写し	H20. 12. 26	財団法人日本水路協会	海上音波探査は、基盤岩が露出している場合には、断層の有無を判断するため重要な堆積層が基盤岩の露出している周辺に断片的にしか存在していないことが多いため、音波の反射により断層のずれを検出することが困難であること
丙 407	意見書	写し	R3. 5. 31	京都大学防災研究所特任教授 川瀬博	経験式から算出される値からの偏差は、観測値として見ると「ばらつき」であり、他方、基準地震動の策定過程において経験式を用いてパラメータ設定をする際に検討すべきものと考えれば「不確かさ」であるということができると等
丙 408	意見書	写し	R3. 5. 28	京都大学名誉教授 入倉孝次郎	
丙 409	意見書	写し	R3. 5. 28	京都大学複合原子力科学研究所特任教授 釜江克宏	
丙 410	基準地震動の策定に係る審査について	写し	R2. 12. 16	原子力規制委員会	